

## 2 揺れや津波に関して提供する情報のねらい

以下の7項目は、地震・津波からみなさまが身を守るためにとても大切な情報です。

### 「揺れ」に関する情報

項目	ねらい
<b>強さ</b> <b>① 震度分布図</b> ・どのくらい揺れが強いのが分かります	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 県民の皆さまがお住まいの地域の揺れの強さを示しています。どのくらい揺れるのかを確認して、お家の耐震化や家具の固定の安全対策を行いましょう。</li> <li>◆ <u>まずは揺れから身を守りましょう。</u></li> </ul>
<b>長さ</b> <b>② 地震継続時間分布図</b> ・どのくらい揺れが続くのが分かります	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 体を感じる揺れ（震度3程度）から強くなり、再び震度3程度に落ち着くまで、どのくらいの時間なのかを示しています。</li> <li>◆ この時間内はそこから動けない可能性があります。<u>この間は机の下などに潜り、机の脚などを持って頭や体を守りましょう。</u></li> <li>◆ 津波が来る可能性がある沿岸域にお住まいの方は、<u>動けるくらいの揺れになったらすぐに避難を開始しましょう。</u></li> </ul>

### 「津波」に関する情報

項目	ねらい
<b>到達時間</b> <b>③ 津波浸水予測時間図</b> ・津波がやってくる時間が分かります	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ この図は足を取られて動けなくなる高さの津波（浸水深 30cm）がやってくる時間を示しています。</li> <li>◆ 強い、弱いに関わらず、長い揺れを感じたら、津波が来ると考えてください。</li> <li>◆ 津波が来る前に水が入ってくる地域もあります。お住まいの地域がどのくらいの時間で浸水するかを確認しましょう。</li> <li>◆ ただし、揺れにより倒壊した家屋で津波の方向が変わったり、道路を津波が「走る」ことで、この図で示した時間より早く到達する可能性があります。</li> <li>◆ 繰り返しになりますが、津波が来る可能性がある沿岸域にお住まいの方は、<u>動けるくらいの揺れになったらすぐに避難を開始しましょう。</u></li> </ul>
<b>方向</b> <b>④ 津波のアニメーション</b> <b>【別途公表】</b> ・どういふうに津波が来るのが分かります	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 時間経過で津波が襲ってくる挙動・方向を表しています。</li> <li>◆ 津波は海の方角から来るとは限りません。川を遡って上流から溢れた水が襲ってくることもあります。</li> <li>◆ <u>津波の動きを見て、避難する際の経路が安全なのかを確認しましょう。</u></li> </ul>

項目	ねらい
<b>避難場所</b> <b>⑤ 津波浸水予測図</b> ・避難すべき場所が分かります	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 津波による最大浸水域と浸水深です。</li> <li>◆ <u>さらにもう一段高いところにすぐ上がれるような高台を目指して逃げましょう。近くに高台がない場合は、浸水深より高い建物や、津波避難タワーなどを避難場所として検討しましょう。</u></li> </ul>
<b>避難時間</b> <b>⑥ 津波浸水深時間変化図</b> ・どのくらいの間避難をしなければならぬかが分かります	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 津波が起こってから12時間以内でどのように押し寄せてくるかを示したものです。</li> <li>◆ 6時間以上津波が収まらない地域もあります。<u>警報解除までは決して家に戻らず、避難を続けましょう。</u></li> </ul>
<b>想定にとられるな</b> <b>⑦ 津波浸水域・津波痕跡重ね合わせ図</b> ・津波予測や過去に発生した津波で「同じもの」は一つもないことが分かります	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 今回想定した南海トラフ巨大地震が起こったときの津波（最大クラス）に加えて、県がこれまで防災対策の前提にしてきた安政南海地震クラスの津波（比較的発生頻度が高いクラス）や、「このあたりには津波が来た」と記されている津波痕跡（古文書や碑）のあるポイントを示しています。</li> <li>◆ これを見ても分かるように、同じ津波は一つとしてありません。しかし、発生した時点ではどの程度の規模かが分からないため、最善を尽くして避難することが大切です。</li> <li>◆ <u>想定と違うことも起こりうることを忘れないようにしましょう。</u></li> </ul>

### ☆使い方の例

- 例1) 避難に使える時間を確認する：③の時間から②の時間を引き算する。
- 例2) 避難場所を決める：⑤により、例1)で確認した時間内で行ける場所（浸水しない高台、または浸水深より高い建物等）を選ぶ。
- 例3) 避難経路を決める：①で避難経路が倒壊家屋や倒壊ブロック塀で塞がれる可能性が無いか、④で思わぬ方向から津波が来ることがないかをイメージする。複数の経路を考えておく。
- 例4) 避難場所の滞在期間をイメージする：⑥でどのくらい津波が続くか、真夏や真冬で長時間避難しなければならないことを想定しておく。
- 例5) 避難訓練をする：例2)で決めた避難場所までどのくらいで避難できるかを試す。以降、その時間を縮めるために繰り返し訓練を行う。

など

